

令和元年度 第3回 平塚市博物館協議会会議録

■ 開催日時 令和2年3月27日(金) 10時～11時30分

■ 開催場所 平塚市博物館 講堂

■ 会議出席者(敬称略)

会長 椿田有希子

副会長 平井 晃

委員 安室 知、植田育男、鈴木美喜、横関秀美

事務局 澤村館長、杉山館長代理(管理担当長)、栗山館長代理(学芸担当長)

■ 傍聴者 0名

■ 会議の概要

1 開 会 博物館長挨拶

2 議 事

(1) 報告事項等について

- ・ 令和元年度冬期特別展
- ・ 第20回博物館文化祭
- ・ コロナウイルスまん延防止対応について

(2) 令和2年度予定について

- ・ 令和2年度当初予算について
- ・ 令和2年度事業計画について

(3) その他

- ・ 事務連絡等

3 閉 会

※ 閉会后、春期特別展の展示解説

■ 議事および質疑

議題(1) 報告事項等について

◆冬期特別展「賢治がみつめた石と星」について事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委 員 この特別展は作品とモノを対比させて展示していた。作品を熟読してポイントを探し出し、実物を揃えていくといふとんでもなく詳細な作業が必要だったと思うが、よくできたと思う。物理や地学の人あまり文学が得意じゃないとも言われる中で、地学と天文と連携してここまで結び付けたという例を私はあまり知らない。解説の中身も非常に賢治の文の背景をくみ取っていたので興味深く見た。それが図録の販売数に繋がっているのではないか。ほんとうにヒット商品という感じなので、こういう内容がまたできたらいいと思う。

事務局 この地質担当の学芸員、天文担当の学芸員は文学にも精通しているので、その資質を生かした特別展であったと考えている。

委 員 入館者の内訳をみると、子どもの割合は28%だが、例年の特別展と比較してどうなのか。子どもは多かったのかどうか。

- 事務局 だいたい子ども向けとして想定する夏の特別展などでは30%を超えることが多いため、30%が目安となる。今回は小学生・中学生より上の年代の方が多く見られた印象がある。
- 委員 30%は超えてないが30%に近い割合が子どもで、しかもアンケートで「やや難しい」「とても難しい」と反応された方が2名しかいなかったことを考えれば、子どもを含む広い年齢層が理解できる内容だったのではないかと推察する。数値がそれを物語っているのかもしれない。
- 委員 小学生は5年生で宮沢賢治の「やまなし」の学習をする。そこから派生して宮沢賢治の世界に浸る学習をするので、高学年ではあるが小学生には身近な作家であり興味を持つ子は多い。宇宙や天文に興味を持つ子ももちろんいる。私も拝見して子どもでも分かる内容だと思った。ただ、やはり低学年の子には難しかったかな。図録もとても素敵だった。
- 委員 文学好きな方も見に来て新しい客層を開拓されたとなると、今回は天文と地質のコラボだったが、歴史、民俗、考古と学芸員がいるので、他にもいろいろなコラボの余地があると思う。図書館の司書とコラボするとかいろいろな可能性を秘めた企画と感じた。今後、また文学とのコラボを考えるとどういう展開が可能か。
- 事務局 今回の地質担当（野崎）と天文担当（塚田）の2人は突出して文学に精通していた。文学とのコラボレーションは、学芸員が文学に精通しているかどうかによって左右されるので、今後はそんなに大きく展開しないかもしれない。複数分野間でのコラボレーションについては、ネタをいつも探している。ワーキンググループ活動の中でも分野間の協力はしているので今後も展開していきたい。図書館とのコラボレーションは来年度の事業の中で図書館と打ち合わせを進めているものがある。具体的には生物で、屋外の観察で気になった生きものを図書館で図鑑などを調べるといふ行事ができないかと打ち合わせを行っている。それ以外にも美術館など他の施設とのコラボも考えていきたいし、たぶん増えてくると思う。
- 委員 今後も楽しみにしている。
- 委員 今回は花巻市との友好都市協定35周年ということで宮沢賢治をやったが、逆に花巻のほうで平塚のものを題材とする催しは考えられているのか。
- 事務局 花巻市にも博物館があるが、博物館同士では今のところ話はない。平塚市の紹介ということで市の文化交流課が交流を進め、それぞれの物産の紹介を行っている。すべて把握はしていないが市としての交流はある。
- 委員 アンケートの回答者の中に「関東地方以外」が4名いるが、どういう所からいらっしゃるのか。
- 事務局 「関東地方以外」に〇がしてあるだけなので具体的にはわからない。
- 委員 渡部潤一先生の講演会が体調不良で中止になった。渡部先生は天文学会の重鎮でテレビにも出てくる有名な方なので、楽しみにしていた人が多い。そこで、たんに中止ではなく、延期して実施してほしいという声を聞くが、そういう動きはあるのか。
- 事務局 期待されていた方が多かったのは承知している。たいへんお忙しい先生なので、すぐにといいわけにはいかず、特別展の期間内に再度スケジュール調整をするのは叶わない状態だった。特別展とは無関係のときに、また改めてお願いができればと思っているが、コロナウィルスで講演会が流れる状態が続いているので、ゼロから考えていかなきゃいけない。

事務局 何か別のイベントに絡める形になっていくと思う。単発の講演会よりも、展示との関連でやることで広報面でも効果的になっていくので、条件を整えばまた考えていきたい。

◆第20回博物館文化祭について事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 報告会の聴講者が定年退職者ばかりで若い人がほとんどいなかったのが気になった。今後どうやって若い人が興味を持って参加してくれるようになるのかを、少子高齢者が多いからとかでなく考えていく必要がある。実行委員会の反省会などでも取り上げられているとは思いますが、何か考えはあるのか。

事務局 博物館文化祭の活動報告会に限らず、普段のワーキンググループ活動全体にいえる問題で、メンバーがどんどん高齢化している。新しく募集しているが、応募してくるのはやはり高齢者であり、こういう状況を何とか打開しなければいけないことは大きな課題の一つと承知している。先ほどの冬期特別展で、文学ファンなどふだん見かけない来館者層、具体的には若い女性をよく見かけた。今考えているのは、学問分野にとらわれない切り口のテーマや複数の分野がコラボレーションした企画を打ち出していくことである。これまで博物館に興味がなかった年齢層にアピールできるネタを混ぜていくことで、何かきっかけができればと考えている。このところ、ワーキンググループやイベントの中で小中学生などの低年齢層をターゲットとしたものを通年では行っていないので、通年の行事に参加していく形態につなげる企画が必要と考えている。

事務局 平塚市博物館のワーキンググループの活動については、市民の皆さんと一緒に成果を上げていく手法が高く評価されている一方で、博物館の蓄積になるような成果を上げていくにはそれなりの頻度で会を行っていくことが必要になってくる。その場合、そんなに高い頻度で共働きの家庭が多くなった若い人たちが参加できるのか、日程の縛られない形での活動に若い人たちは参加しやすい。若い方に参加してもらうには、若い方が参加しやすい条件で開催していかないといけない。講演会や特別展などは条件を整えやすいが、ワーキンググループという形態のまま若い方に参加していただくのは敷居が高い状態ではないか。若い方のライフスタイルにある程度合わせていかなければならないだろうし、ワーキンググループの中で博物館が挙げている成果をどこでやっていくのかというのも合わせて考えていかなければならない。これからの社会がどのように変化していくのかを予想しながら、その中で博物館がどんな形態で成果を確保していけるのかはじっくり考えていく必要がある。

委員 若い人が魅力を感じるのは、スターが目の前にいて私もやりたいと思わせることだと思う。今まで言われた内容はずっとやってきたメインの活動と思うが、それ以外の何かをやっていかないと新しいものは出てこないと思う。現状の博物館活動に魅力的なものがないわけではなく、いっぱいある。例えば平塚市民の中から全国一位が出て、世界大会で優勝した人まで出た。博物館活動の中で種まきをして、それがきっかけになって結果が出たということをもっと一般市民に知ってもらい、夢や希望を博物館から発信していく教宣活動を今までの活動にプラスしていく必要があると思う。

- 事務局 委員からご紹介いただいたのは天体観測会の事例である。天体観測会のやり方で成果を上げていけるかどうかは、分野の持っている特質にもよる。委員ご指摘の事例を他の分野でどのように取り組めるか検討していきたい。
- 委員 過去 8 年間の博物館文化祭来館者数を見ると 27 年度だけ子どもの来館者数が多いが、なにか子どもを引き付けるようなイベントがあったのか。
- 事務局 確たる理由はわからないが、文化祭の報告会で登壇する中かなり若い世代の方がいて、そのお友達が来たという状況があったかもしれない。
- 委員 ワーキンググループの展示を見ていると、それぞれ工夫して一生懸命にやられているが、会員の写真を見るとやはり高齢化の印象を受ける。われわれの先輩や同世代が多いと思った。「広報ひらつか」でワーキンググループの募集がかけられているが、高齢者ばかりではなく若い方の申し込みはあるのか。
- 事務局 「広報ひらつか」3 月第三金曜日号で博物館のワーキンググループの特集をしていただいて、その中で募集の記事も出してもらった。葉書・メールともかなり来ている状態ではあるが、今のところ若い人がほとんどいない印象である。
- 委員 高齢化という問題はあると思うが、ワーキンググループ活動は地域博物館の大きな目玉であることは間違いないと考えている。20 周年のメモリアルイヤーで、廊下に過去の歩みを展示したということだが、せっかくなのでそれを形に残る冊子や HP で情報を上げるとか、これだけ蓄積してきたという歩みが分かるような形で記録化しても良いのではないか。
- 事務局 今回はリーフレットの中に文化祭 20 回の歩みとして、今までの博物館文化祭のトピック的な出来事を表にしたのと、各ワーキンググループが過去 20 回の展示・報告会・実演などにどのように参加してきたかという実績表を載せておいた。それは最低限のことなのだが、ご指摘のように写真や過去のポスターなどを含めてもう少しボリュームのあるものをいずれ用意していくのも一つの PR の在り方と思う。
- 委員 アンケートの感想のところに「研究結果をインターネットで検索できるのか」とあるので、活動に関心を持つ方は一定数いると思う。過去の歩みが分かると興味が加味されると思う。
- 委員 若年層の参加が弱いという話だが、元々博物館の来館者層自体が年配の方中心の傾向がある。そこで、大学生や 20 代の方々もターゲットにする展示を常設展でなくても特別展や企画展で展開する。例えば国立科学博物館のミイラ展は 10 代後半から 20 代前半の女性グループの見学が非常に多かった。ミイラに女性が惹かれる理由があるのか、SNS などにつながっているのかわからないがそういう事例があった。あとは子どもを含めた家族で参加する活動が弱くなっている気がする。藤沢市の「藤沢めだかの学校を作る会」は 20 数年続いているが、月一回の観察をする会合に毎回 10 家族、40~50 人ぐらい来る。最後に子どもたちが観察した内容を一枚の絵に表して発表するという活動が続いている。そういうことももう一度考えてみたらどうか。しかし家族単位を多くすると運営が大変なので、一人の学芸員で回せるようなものではないため、お手伝いができる人たちをワーキンググループなどで作っていく仕組み作りが必要と思う。

事務局 夏休みを中心に、お母さんと子どもで来館する姿は結構見かける。科学実験型のイベントは整理券を配るのに開館前から行列ができるぐらい需要がある。この1回来た方をリピーターにする工夫が必要と考えている。ここ数年博物館のイベントの企画で留意しているのは年間会員制の行事とそれ以外の行事との参加者数の割合である。年間会員制の行事は、学芸員はわりと楽というか、知っている人も多くて参加者も慣れている。しかし、年間会員制行事ばかりだとふらっと博物館に立ち寄った人が参加できるネタが少なくなってしまう。そのため、自由参加型、事前申し込み型のイベント行事を増やすことによって、まずは博物館に来てもらうきっかけを多くの人に持ってもらいたい。それがワーキンググループへも繋がってくるのではないかとということで自由参加の行事を増やす努力をしている。ここ2, 3年、年間の行事参加者数の半分以上を超えており、その点は良くなってきている。また、天文、歴史、考古の分野ではそれぞれ入門講座を行っているが、以前は事前申し込み制だったものを自由参加にして、定員オーバーするまでは参加いただける形にして、かなり聴講者数も増えている。ただ、考古学や郷土史の方は増えてはいるのだけれど、高齢者ばかりである。このようにふらっと立ち寄った時に参加できる行事を増やしてそれをきっかけにしていきたい。また、そのきっかけを生かしていく次の段階の工夫をしていかなければいけないと考えている。

時代が変わってきたと思うことがあり、平成4年に考古学の分野で古代遺跡を探す会というのを立ち上げたが、その当時は小学生と親御さんという参加者が4組ほどいた。しかし今、遺跡を歩いてみましょうとイベントで募集しても小学生を含めた親子の反応がほとんどない。何が原因なのかは今のところ思い当たらない。館内の展示で親子連れは確かにいるので、そういう方にどうすればアピールできるのかを考えることが課題である。

委員 やはり昔に比べると子どもが忙しくなっていて、地域の行事に出かけてくる子は限られているので、それを博物館までというのはよっぽど魅力的な何かが必要と感じる。何かアイデアがあるといいのだが。

委員 先日ようやく厚木の新しい博物館に行った。びっくりしたのは、小学生が引率付きで30人程度来ていて、特別に子供たちを集めて考古の縄文土器の展示を自由に触らせたり、スケッチしたりしていいという場所を設けていた。これだけ小学生がいるといいなと思った。博物館では、天文の方には子どもたちが見に来るが、下のフロアに子どもたちが一クラスぐらい来ることはあるのか。

委員 私も学校で子供たちを連れてきたことがある。学習に関連して、天文を見に来ることもあるし、道具を見に来ることもある。

委員 今でもやられているか。

事務局 やっている。

委員 そういうところから子どもたちに博物館が身近なものになってくれればと思うが。

事務局 学校の団体はかなりの数来ている。幼稚園・保育園・こども園がプラネタリウムを見に来る機会もあり、子供たちが博物館に接する機会は決して少なくない。夏休みの行事でも、手で作業するような体験的なものはかなりお子さん連れでいらっしやる。そのため、入口は作ることが

できていると思う。入門講座という座学形式のものは入門であっても年配の方が多くなる傾向がある。だから学習の形態によってかなり差が出るのかもしれない。文化祭の報告会も登壇者に対して座学で聞く形態なので、年配の方が多くなるのは必然性があると思う。文化祭の報告会の活性化において若い方が必要ということであれば、報告会とは違う形を考える必要がある。

委員 地域で活動されている市民の発表の機会を設けるといのはすごく良いことだと思うが、それとともに学芸員が日常どういう研究をしているのかがとても気になる。博物館文化祭の中で、プロの学芸員がどういう研究をしているのか 20 分ずつぐらいで良いので話す機会を作ると、新たな客層が掘り起こせるのではないか。自分が横須賀市の博物館に勤めていた時にも郷土研究発表会という同じような行事をやっていたのだが、そこではこういうワーキンググループの発表とともに、学芸員たちも全員一年間どんな研究をしたのかを発表することが義務付けられていた。発表のテーマは絞るけれども。良し悪しは別として、外から見ると何をやっているかわからないのが子どもにとっても一般社会の人たちにとっても博物館のイメージなのではないか。専門のことは『自然と文化』で論文を書けばいいのだが、それとは別に文化祭の中で発表する機会を設けてくれるとありがたい。ワーキンググループの指導をしながら自分たちの発表もというのは大変と思うが検討してほしい。

事務局 文化祭の中では組み込んで来なかったが、一番学芸員の個性が出るのがイブニングミュージアムウィークだと思う。時間が遅いので大勢詰めかけるわけではないが、開催時間の変更や博物館文化祭の中に持ってくるなどの工夫で委員ご指摘のアイデアを生かせるかもしれない。

◆新型コロナウイルスまん延防止対応について事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 周りの状況を見ると4月1日以降も開けるのは難しいと思う。博物館がクラスター感染を起こさないようにする努力が必要。例えば、入口にアルコール消毒液を置く、展示室の接触感染を防ぐ意味でアルコールを使った清掃の回数を増やすなど、他にも対策はあるのではないか。

事務局 消毒液の設置や注意事項の掲示等を行いながら、来館者にも協力いただく予定である。

事務局 消毒液やマスクが不足している状態を勘案しながら運営について判断していく必要がある。展示物についても、消毒液の調達が厳しい中で、現実的には手に触れるところの消毒ができる状態ではない。

委員 美術館や図書館も同じような状況と思うが。

事務局 現状で椅子などの消毒ができているのは本庁の一階程度で、消毒の材料が不足しているので非常に悩ましい。

委員 人手は大丈夫か。

事務局 委託業者が清掃している。

委員 回数は増やしているのか。

事務局 方法を変えている。水拭きだった所をアルコール消毒する必要がある。

委員 普段より強化して、やりすぎるといふことは無いと思う。

- 委員 博物館行事では、今年度末で退職する沢村館長の行事が中止となっているが、順延の予定はあるのか。
- 事務局 館長の再任用先が博物館であれば全く問題なかったのだが、別の部署になったので、配属先の仕事との兼ね合いもある。いつになっても良いのでぜひお願いしたいと考えている。
- 委員 「あなたと博物館」にある「臨時休館中も職員は出勤しております。ご質問やご相談がある方は博物館へお問い合わせください」という対応は良いことなので、もし4月1日以降も休館し、学校が休みになれば、事前に電話予約などすれば展示も見られるようにし、時間を区切って二時間ごとに入れ替えるなど密集を作らない工夫をしながら開館してもらえるとありがたい。学校が休みの小学生は公園でいっぱい遊んでいる。行き場がなくてしょうがない。それまではゲームやるなど言われていたのに、今は家でゲームをやれと言われている。博物館は工夫すれば展示に来てもらえる。事前に予約した人数だけ入れ、2mぐらいずつ離れて見るとか、きめ細かな対応もできると思う。せっかく職員が出勤して質問に対応する体制ならば、工夫すればできるのではないか。小学生が休みのときに博物館まで休みになるのはもったいない。
- 事務局 現状は市の施設は一律に決められている。今後は施設の条件によってある程度判断されていく気配はある。今後の状況により可能であれば提案していきたい。

議題（2）令和2年度予定について

◆令和2年度当初予算について事務局杉山管理担当長が説明資料により説明。

- 委員 資料の13頁で、前年度差で増えている施設修繕料は建屋の修理か。
- 事務局 受変電設備の修繕である。
- 委員 学芸活動の内容で増減があったのは、使用料賃借料のプラネタリウム関連のところだけか。
- 事務局 その通り。
- 委員 業務委託の人件費が減っているが、実際人を減らしているのか。
- 事務局 日々雇用で週二日お願いしていた方について、会計年度任用職員として採用しなさいという国の通達によるもので、人員等の変更はない。

◆令和2年度事業計画について事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

- 委員 6月1日～12日の燻蒸を一カ月早め、ウィルス対策と兼用して休館中に実施できないか。
- 事務局 例年6月の梅雨入り前後に燻蒸をしているのは、この時期に害虫の卵の発生やカビの発生を抑えられることが一つ。もう一つは各年度の事業費なので、4月1日から契約に向けた事務手続きするのに5月へ前倒しするのは時間的に厳しい。また、今年度は5月末日まで特別展を延長している状況もある。
- 事務局 先が読めない状況なので、苦勞して時期を変更する効果が見通せない。

議題（3）その他

閉会后、準備中の春期特別展を塚田学芸員の案内で見学した。

◆次回の協議会は令和2年5月27日に開催することとした。

配 布 資 料

令和元年度 第3回平塚市博物館協議会 次第

令和2年3月27日(金)午前10時
平塚市博物館 講堂

1 開会

2 議事

(1) 報告事項等について

- ・令和元年度冬期特別展 【資料 1-1】
- ・第20回博物館文化祭 【資料 1-2】
- ・コロナウイルスまん延防止対応について 【資料 1-3】

(2) 令和2年度予定について

- ・令和2年度当初予算について 【資料 2-1】
- ・令和2年度事業計画について 【資料 2-2】

(3) その他

- ・事務連絡等

3 閉会

会議終了後、春期特別展の展示を御覧いただきます。

以 上

令和元年度冬期特別展「賢治がみつめた石と星」開催報告

会 期 令和元年11月2日(土)～令和2年1月13日(月)

主 旨 宮沢賢治は現・岩手県花巻市出身の詩人・童話作家である。彼は当時の最新の天文学に対する造詣が深く、また“石っこ賢さん”と呼ばれたほどの石好きでもあった。実際に宮沢賢治の作品には天体や岩石・鉱物などに関する自然科学的知見が随所に見られ、天文学や地球科学の知識があることでより深く作品を知ることができる。花巻市と平塚市の友好都市協定35周年となる本年、平塚市博物館では自然科学的な視点で彼の作品を読み解くとともに、自然科学と彼の作品とのかわりを紹介した。

展 示 構 成 序章 賢治の作品と生涯／1章 描かれた石と星／2章 賢治の自然科学観／3章 賢治の故郷 花巻・岩手

入 館 者

	入館者数			開館 日数	こどもの 割合	平均入館 者数/1日
	大人	こども	合計			
11月	3611	1915	5526	25	34.7%	221
12月	2651	917	3568	24	25.7%	149
1月	1854	416	2270	9	18.3%	252
期間計	8116	3248	11364	58	28.6%	196

関 連 行 事

特別展展示解説

- ① 11月2日(土) 13:00～13:45 (参加20名)
- ② 12月1日(日) 13:00～13:45 (参加40名)
- ③ 12月26日(木) 13:00～13:45 (参加18名)
- ④ 1月5日(日) 13:00～13:45 (参加60名)

プラネタリウム特別投影「銀河鉄道の夜」 (参加679名)

日時：11月2日(土)、9日(土)、16日(土)、24日(日)、
12月7日(土)、8日(日)、14日(土)、15日(日)、
25日(水)、26日(木)、
1月5日(日)、11日(土)、12日(日) 15:30～16:15

プラネタリウム特別投影 星空音楽館 (参加59名)

「賢治が愛したクラシック」

日時：11月17日(日) 16:00

体験学習「イーハトーブの宝石図鑑をつくろう」 (参加43名)

日時：11月24日(日)、12月14日(土) 10:00～12:00

講演会「宮沢賢治の描いた宇宙」

講師：渡部 潤一 氏(国立天文台 副台長・教授)

(演者体調不良のため中止)

日時：12月1日(日) 15:30～17:00

星を見る会「賢治が愛した星たちを見よう」

(参加47名)

日時：12月20日(金) 19:00～20:30

プラネタリウム朗読「聖夜のおくりもの」

(参加110名)

日時：12月21日(土) 19:00～20:20

12月22日(日) 17:00～18:20

イブニングミュージアムウィーク「学芸員の文学夜話」

- ① 「近世平塚周辺の俳諧」 (参加 16 名)
 講師：早田旅人 (平塚市博物館学芸員)
 日時：11 月 12 日 (火) 18 時～18 時 50 分
- ② 「大正期の子ども雑誌」 (参加 19 名)
 講師：小池光理 (平塚市博物館学芸員)
 日時：11 月 13 日 (水) 18 時～18 時 50 分
- ③ 「更級日記と古代の旅」 (参加 28 名)
 講師：栗山雄揮 (平塚市博物館学芸担当長)
 日時：11 月 14 日 (木) 18 時～18 時 50 分
- ④ 「詩に描かれた宝石」 (参加 13 名)
 講師：野崎篤 (平塚市博物館学芸員)
 日時：11 月 15 日 (金) 18 時～18 時 50 分
- ⑤ 「厚木の農民文学作家・和田伝を読む」 (参加 15 名)
 講師：浜野達也 (平塚市博物館学芸員)
 日時：11 月 16 日 (土) 18 時～18 時 50 分
- ⑥ 「賢治が綴った星空の謎」 (参加 29 名)
 講師：塚田健 (平塚市博物館学芸員)
 日時：11 月 17 日 (日) 18 時～18 時 50 分

印 刷 物

冬期特別展「賢治がみつめた石と星」

A4 判 112 頁 カラー 1,500 部 頒布価格 ¥500

開催期間内頒布部数：779 部

ポスター B3 判 カラー 500 部

リーフレット A4 判 カラー 3,000 部

アンケートの結果

回収枚数 138枚

回答者の住所 平塚市内 60名、平塚市外神奈川県内 63名、神奈川県外関東地方 8名
関東地方以外 4名 海外 0名

回答者性別 男 54名、女 83名、

回答者年齢	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	13名	12名	5名	26名	26名	18名	31名

情報の入手先 広報ひらつか 38名、博物館のホームページ 16名、あなたと博物館 3名、
(複数回答可) 新聞等 26名、ポスター10名、口コミ 12名、その他 28名

おもしろさ	とてもおもしろい	ややおもしろい	ふつう	ややつまらない	つまらない
	95名	34名	4名	1名	1名
	70.4%	25.2%	3.0%	0.7%	0.7%

難しさ	とてもよくわかる	まあわかる	ふつう	ややむずかしい	とてもむずかしい
	56名	53名	12名	13名	2名
	41.2%	39.0%	8.8%	9.6%	1.5%

総合評価	とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
	91名	37名	8名	1名	1名
	65.9%	26.8%	5.8%	0.7%	0.7%

ご意見・ご感想（一部抜粋）

- ・ 学校で「やまなし」の勉強をしていて、教科書に出てきた宝石などを知れました！（小学生・男）
- ・ 宮沢賢治の小説（作品）が好きで訪れました。実際の鉱石の色、星の色や姿を知ることが出来、作品内の色がより鮮やかになったように思います。（30代・女）
- ・ 宮沢賢治記念館に訪れたことがありますが、この特別展では、様々な視点からとても興味を引く展示をされており、益々知りたいことが増えました。すてきな展示をありがとうございます。これからも楽しみです。（50代・女）
- ・ 今勉強していることやあまり興味を持っていないものでも楽しめてよかった。（小学生・女）
- ・ 情報量の多さにびっくり。ここまで調べて、実際の標本を準備するには、とても労力がかかっていたと思いますが充分見ごたえのある内容になっていると思います。この内容を無料で見れるなんて、またびっくりです。子供の頃のドキドキを思い出しました。ありがとうございます。（50代・女）
- ・ 今月末に花巻に行く予定があり、よらせてもらいました。平塚と花巻が友好都市ということを知り初めて知りました。花巻に行くのが楽しみになりました。（50代・女）

- ・ 物語や詩の中に出てくる実際の石や鉱物たちを文章を読みながら、それらを見ることが出来、とても楽しかったです。天体・石・宮沢賢治好きにはたまらなく面白い企画でした。ありがとうございます。じっくり見てまわったところ1時間半かかりました。(40代・女)
- ・ 宮沢賢治の独特の表現を石、星の現物に対比して説明して頂いており、勉強になった。地質学、天文学に知見を求められる以外に文学にも賢治文学を精通していないとできない内容であり、大変なご苦労があったかと思います。有難うございました。(70代・男)
- ・ わかりやすくせつめいされていて、子どもでも楽しめる特別展だと思います。(小学生・女)
- ・ もうちょっとないようをみじかくしてほしい
- ・ 作品数も多いのでエピソードも多く、興味深く観賞しました。(40代・女)
- ・ とてもきれいに展示されています。鉱物が好きなので見学に来ました。(70代・男)
- ・ 以前岩手を旅行する機会があり、初めて知ることが多く、今回は誘われて行きました。展覧会が広がっているなと思いました。見るのも楽しいですが実体験のように絵や物して表現すると面白いかもしれないと、宮沢さんのおかげさまで宇宙をよし知れる一歩だなと思い、大切に守ってこられたから今があるんだなと思いました。ありがとうございました。(20代・女)
- ・ 作品に出てくる鉱物・星座が文章と共に置いてあると文章だけではわからなかったものがすんなり頭に入ってきてとてもイメージが湧きました。ありがとうございました。(40代・女)
- ・ 友好都市花巻とのつながりで。このような特別展が開かれた事。賢治 fan の私にとって、とても興味深く見ることができました。ありがとうございます。(70代・女)
- ・ 解説者の方本当にありがとうございます。賢治が見た石を実際にどんなものか見ることができ、難しかったがとてもよかったです。砂を現地で拾われたと聞いて感動しました。ヨタカの実物も初めてみることができました。(70代・女)
- ・ 順路が少しわかりにくいと思いました。例えば、序文のところと最後の第3章の位置が近くそちらから見てしまうということを私はしてしまいました。展示室内も博物館側が本来見せたい順路とは異なる順で見えてしまいました。(20代・男)
- ・ 星座、岩石、地層など文章と合わせた展示は非常に素晴らしい企画でした。賢治の本当の姿が見えてきました。ありがとうございました。(80代・男)
- ・ とてもさまざまな触発を受ける充実した展示で堪能させていただきました。小6の子供も来たがっていたので次は一緒に見に来ます。賢治読み直したくなりました。(40代・女)
- ・ 東北の花巻市の用様がわかりやすく、展示もとても分かりやすかったです。一度、東北に行ってみたいと思います。(40代・男)
- ・ とても面白い展示です！！もう一度来ます (30代・男)
- ・ 宮沢賢治がなぜ石にこんなにも興味を示したのか大変わかりました。たまたま通りがかっただけでしたが小さいころからの疑問が解けました。石はおもしろいです。最近岩手に住む人と連絡を取り始めたのでとても親しみを覚えました。(50代・女)
- ・ 宮沢賢治の作品が好きで、今回の解説会を知り来館しました。彼の生涯から、作品に散りばめられた科学者としての知識までを追えたのは、とても興味深かったです。鉱石の色を実際に見れたのは大きな収穫でした。ただ、第2章の宇宙・天文に関する解説は専門的で難解でした…。非常に満足した展示でした。ありがとうございました。(20代・女)
- ・ 12月もここにやってきました (20代・男)
- ・ 花巻市と友好都市であることを生かし、これからも宮沢賢治展をちょくちょく行ってもらえたらうれしいです。次回は子連れでも来たいと思います。(40代・女)
- ・ 宮沢賢治の作品を読み返したくなりました。全く違う作品として読めそうです。図録を買ったので並べて読みます！ (40代・女)
- ・ いろいろな石や資料があっっておもしろかったです。学校で「銀河鉄道の夜」の読書感想画をやっていたところだったのでおもしろかったです。(小学生・女)

「第20回博物館文化祭－ワーキンググループ活動 展示・報告会・実演－」開催報告

- 1) 会 期 令和2年2月8日(土)～24日(月・祝)
- 2) 展示会場 平塚市博物館特別展示室
- 3) 主 催 平塚市博物館、第20回博物館文化祭実行委員会
- 4) 主 旨 博物館で活動する会員制ワーキンググループが、活動成果の発表を通じて相互の交流を深めるとともに、市民に広くその活動内容を紹介することを目的に開催した。

5) 参加ワーキンググループ

聞き書きの会 古代生活実験室 古文書講読会 石仏を調べる会 地球科学野外ゼミ
 展示解説ボランティアの会 天体観察会 東国史跡踏査団 民俗探訪会 平塚学講座
 (以上10団体、前回より2団体減)

- 6) 運営状況 準備と運営を例年どおり実行委員会形式で行った。参加ワーキンググループから各1人以上選出された実行委員で実行委員会を組織した。計4回の実行委員会を実施し、開催に向けた意見交換や諸準備を行い、館事務局と調整を図りつつ諸事を進めた【表1】。

開催告知用ポスターは、各ワーキンググループにデザインを募った結果、4種類のデザイン(古代生活実験室、石仏を調べる会、天体観察会、民俗探訪会が作成)が集まり、庁内カラーコピー機で計317部印刷した。ポスターは市内の広報掲示板への掲示をはじめ、市内の小中学校と公民館、市外の図書館・博物館へも送付し、行事の周知に努めた。パンフレットはA5縦判16頁とし、庁内印刷室で700部印刷して博物館受付や特別展示室で配布するとともに、ポスターの発送時に同封して行事の周知に努めた。

展示は、各ワーキンググループの活動成果を実物資料や模型、写真、ポスター形式の説明で紹介した。展示参加ワーキンググループは8団体で、平塚学講座を加えると合計9団体(前回11団体)であった。また、第20回の開催を記念し、過去の文化祭の様子を写真、ポスター、パンフレットで紹介する「博物館文化祭20回の歩み」を特別展示室前の廊下壁面へ展示し、文化祭の歴史を振り返った。この展示の設営には、実行委員有志が協力した。

前回に引き続き展示会場に質問掲示板を設置した。観覧者が展示内容への質問や意見を質問用紙に記入してホワイトボードへ掲示し、それをワーキンググループ会員または担当学芸員が回答して再掲示するというもので、質問と回答を全体で共有することを主な狙いとした。会期中に4件(前回13件)の質問用紙が掲示された。

加えて、関連行事として活動報告会を実施し、7つのワーキンググループと平塚学講座の計8団体(前回は5団体)が活動成果を発表し、97名が参加した。また、実演を1件(前回3件)予定していたが、雨天中止となった。

会期中の入館者は2,679人(前回2,034人)、一日平均179人(同145人)であった【表2】。

【表1】第20回博物館文化祭実行委員会の日程

回数	月日	主な協議内容	人数
第1回	9月21日(土)	文化祭の内容確認と検討、日程打合せ、役員を選出など	6人
第2回	11月2日(土)	参加の確認、展示レイアウトの検討、など	9人
第3回	12月14日(土)	展示・活動報告会の詳細検討、20回の歩み展の確認など	8人
第4回	1月25日(土)	ポスター・リーフレット発送作業、詳細確認など	7人
第5回	3月7日(土)	反省会 【臨時休館のため延期】	

【表2】過去8年間の文化祭入館者数

	大人	子ども	計	日数	子どもの割合	1日平均	参加団体数
R1年度(2020 2/8～2/24)	2,269人	410人	2,679人	15日	15.3%	178.6人	10
29年度(2018 2/4～2/18)	1,549人	485人	2,034人	14日	23.8%	145.3人	12
28年度(2017 1/14～1/22)	1,421人	670人	2,091人	8日	32.0%	261.3人	12
27年度(2016 2/6～2/21)	2,279人	1,036人	3,315人	14日	31.3%	237.0人	12
26年度(2015 2/1～2/15)	1,697人	656人	2,353人	13日	27.8%	181.0人	11
25年度(2014 2/2～2/16)	1,200人	451人	1,651人	13日	27.3%	127.0人	13
24年度(2013 1/27～2/11)	1,744人	773人	2,517人	14日	30.7%	179.8人	7
23年度(2012 2/4～2/19)	2,462人	600人	3,062人	14日	19.6%	219.0人	11

7) 展示ワーキンググループとタイトル

ワーキンググループ名	展示タイトル
地球科学野外ゼミ	鎌倉武士の刀は地場産か? ～地質学的観点から検証する～
古代生活実験室	実験考古学 ～私たちグループが目指すもの～
展示解説ボランティアの会	トビラの中の小さなヒラツカ
天体観察会	2019年の天体観察会
平塚学講座	平塚学講座の紹介
民俗探訪会	千年余の歴史を誇る延喜式内社を訪ねて
石仏を調べる会	石仏マップづくりの歩み
東国史跡踏査団	三浦一族と源氏三代
古文書講読会	激動の文久3年 - 井沢家文書『見聞雑書』の世界 -

8) 活動報告会 2月16日(日) 13時～16時20分 会場講堂 参加自由 参加者97人(前回70人)

時間	発表ワーキンググループ	発表タイトル	発表者
13:00	実行委員長	開会あいさつ	露木 正巳
13:05	古文書講読会	『見聞雑書』に見る激動の文久3年	露木 正巳
13:25	地球科学野外ゼミ	地球科学野外ゼミに参加してみよう / 活動紹介	牧野 麻子
13:45	聞き書きの会	聞き書きから学んだこと	杉園佐智子
14:05	民俗探訪会	相模国延喜式内社を訪ねて	平尾 正之
14:30	休憩		
14:45	石仏を調べる会	城所の石仏	妹尾親司・浅野克之・関根武
15:10	古代生活実験室	採集した土器破片の整理	澤井 健二
15:30	平塚学講座	平塚学講座の紹介	講座受講生
15:50	天体観察会	定年から始めた僕らの流星観測 一流星分科会の2019年ペルセ群観測報告	永井 和男
16:25	博物館長	閉会あいさつ	澤村 泰彦

9) 実演 参加自由 雨天のため中止(前回は3件81人)

ワーキンググループ名	タイトル	日時	会場	人数
天体観察会	太陽黒点を見よう	2月16日(日) 10:00～12:00	屋上	雨天中止(前回32人)

10) 印刷物:

・パンフレット: A5判 16頁 庁内印刷 700部 ・ポスター: A3判 庁内カラーコピー 317部

11) 来場者アンケート結果:

○回収枚数 13枚(前回10枚)

○記入者の住所 平塚市内8人、平塚市外県内4人、県外関東地方0人、関東地方以外1人

○記入者の性別 男性11人、女性2人

○開催情報の入手(*複数回答有)

広報 ひらつか	博物館 HP	あなたと 博物館	新聞等	ポスター	口コミ	知らな かった	その他
4人	4人	2人	0人	1人	0人	0人	3人

○満足度

興味深い	やや興味深い	ふつう	ややつまらない	つまらない
5人	3人	4人	0人	1人

○むずかしさ

とてもわかりやすい	わかりやすい	ふつう	ややむずかしい	とてもむずかしい
4人	4人	5人	0人	0人

○年代

～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
1人	0人	1人	3人	1人	1人	6人	0人

○総合評価

とても良い	良い	ふつう	もう少し	良くない
4人	6人	2人	1人	0人

<感想・ご意見>

- ・展示がすばらしかった。
- ・各 W.G の報告が力作だった。面白く興味をもって閲覧できました。有難うございました。
- ・通常見逃している史実や文化財を丁寧に解説されているのが印象的！
- ・発表展示が手作り感がありとても身近に感じた。この形なら誰でも発表資料をまとめて表示できると思った。内容も団体数が多いせいか、広く情報を得られると思った。団体数が多いのに、市民の参加のそれぞれに多いのも日頃の活動がとてもよいものだからと思う。
- ・とても地元らしいです。
- ・20回も継続していることが素晴らしいと思いました。
- ・わからない。文章を読むのがつらい
- ・平塚の浜の砂はなかったのが残念。ペットボトルとじしゃく、使い方がわからなくて全然ダメだとあきらめる人が数人いらしたので、使用方法あった方がよかったです。やってよかった方法を説明してあげました。
- ・研究結果は、インターネットで検索できるのでしょうか。
- ・それぞれの研究会で関係するテーマで研究するのも良いと思う

<調べたい・知りたいと思っていること>

- ・須賀港と大山道
- ・平塚の歴史、生い立ち etc
- ・古文書関係
- ・学校に残された歴史資料
- ・大仏について
- ・こけ

新型コロナウイルスまん延防止対応 博物館行事の変更

令和2年(2020)3月24日現在

■臨時休館

令和2年3月3日(火)～3月31日(火)

■春期特別展「空を見上げよう 光と色の不思議」

・会期変更

令和2年3月20日(金祝)～5月6日(水) → 令和2年4月1日(水)～5月31日(日)

・関連事業

展示解説

第1回:3月22日(日) → 中止

第2回:4月11日(土) → 中止

第3回:5月2日(土)

記念講演会「すごい空の見つけかた」武田康男氏(空の探検家/気象予報士)

3月28日(土)午後3時30分～5時 → 中止

記念講演会「アナザースカイ 地球以外の惑星の空を考える」塚田健

4月19日(日)午後3時30分～午後5時 70人(先着順) → 中止

体験学習「光の不思議を探ろう ～偏光万華鏡と分光器づくり」

4月25日(土)午後3時30分～5時 科学教室 → 中止

■プラネタリウムの投影中止

- ・一般向け番組「ゆりかごから墓場まで～星の一生をめぐる」
- ・一般向け番組「ハッブル宇宙望遠鏡30年」
- ・幼児向け番組「すいせいゴエモンのぼうけん」
- ・館長のプラネタリウム解説(最終回)「北斗七星は今夜も高く」 3月21日(土)
- ・プラネタリウム特別番組「星空散歩」 4月5日(日)

■中止した行事

- ・郷土史入門講座「近世丹沢の環境と景観」 3月22日(日)
- ・澤村館長のラスト・トーク「語りつくしー京都星歩きの旅」 3月29日(日)
- ・自然教室「里山の春を歩こう」 3月29日(日)

■展示の変更

・ 寄贈品コーナー（1階）

「鎌倉武士の足跡を辿る」令和2年3月7日（土）～4月5日（日）

会期変更 → 令和3年1月21日（木）～2月23日（火）

「新着資料展 自然部門」令和2年4月9日（木）～5月6日（水・祝）

会期変更 → 4月4日（土）～5月6日（水・祝）

・ 情報コーナー（2階）

「ポスト特別展 賢治がみつめた石と星～銀河鉄道の夜～」

令和2年3月7日（土）～5月6日（水）

会期変更 → 4月1日（水）～5月6日（水・祝）

■年間会員制行事（ワーキンググループ）

令和2年3月中の活動は中止

■4月以降の予定

4月1日（水）から開館

4月以降は屋外行事は実施 館内行事は形態や参加者数、環境により判断する予定

→ 3条件

① 換気の悪い密閉空間

→

野外行事は実施 参加定員縮小

講堂の使用

② 人が密集している

→

活動形態で判断

③ 近距離での会話や発声が行われる

プラネタリウム投影は当面見合わせる

令和2年度 社会教育部予算構成

	(単位:千円) 平成31年度当初	(単位:千円) 令和2年度当初	(単位:千円) 前年度比
一般会計当初予算 合計	80,780,000	87,520,000	6,740,000
教育委員会予算(教育費) 合計	6,799,350	9,405,564	2,606,214
社会教育部(職員給与費除く) 計	1,118,694	1,477,031	358,337
<hr/>			
社会教育費(職員給与費除く)	970,947	1,317,394	346,447
社会教育課・・・社会教育総務費	50,076	51,571	1,495
中央公民館・・・公民館費	477,527	727,778	250,251
中央図書館・・・図書館費	189,742	244,229	54,487
博物館・・・博物館費	76,550	99,633	23,083
・・・市史編さん費	5,063	5,445	382
美術館・・・美術館費	171,989	188,738	16,749
<hr/>			
保健体育費(職員給与費除く)	147,747	159,637	11,890
スポーツ課・・・保健体育総務費	44,135	50,609	6,474
・・・体育施設費	103,612	109,028	5,416

令和2年度各事業の概要と予算

事業名	事業概要	予算 (単位:千円)
1 博物館特別展事業	学芸員が収集・調査・研究した成果を市民の知的共有財産とするため、特別展を開催し、その成果を分かりやすく具体的に展示します。令和2年度は、「平塚空襲」をテーマにした特別展などを開催します。	5,489
2 博物館教育普及活動推進事業	市民の生涯学習に役立てるため、体験学習、各種の講座、野外教育活動、プラネタリウム投影等を実施します。	32,374
3 博物館協議会事業	博物館の運営全般にわたる諮問及び協議を行うため、博物館協議会を開催します。	170
4 博物館管理事業	博物館の安全かつ快適な施設環境を保持するため、施設の適切な維持管理を行います。令和2年度は、受変電設備の更新などを行います。	59,744
5 博物館情報システム事業	市民に地域への関心を深めてもらうため、博物館が集めた平塚及び相模川流域に関する情報を広くインターネットで発信します。	1,856
6 市史編さん事業	本市の歴史的発展過程を振り返り、郷土に対する市民の関心を高めるため、平塚市史を編さんします。 令和2年度は平塚市史「別編寺社(2)」の編集作業を継続して行います。	5,445
総計		105,078

博物館 令和2年度歳出予算一覧

博物館特別展事業

費目	主な支出内容	31予算	R2予算	前年度差
報償費	展示協力者・資料提供者謝礼	507	507	0
旅費	調査・資料収集出張旅費	54	54	0
消耗品費	特別展示用消耗品	640	640	0
印刷製本費	図録等印刷代	3,372	3,372	0
通信運搬費	資料等運搬費	88	88	0
委託料	特別展用看板・パネル等製作委託料	780	780	0
原材料費	展示等作成用原材料	48	48	0
事業費計		5,489	5,489	0

博物館教育普及活動推進事業

費目	主な支出内容	31予算	R2予算	前年度差
報償費	展示協力者・資料提供者謝礼	2,361	2,361	0
旅費	調査・資料収集出張旅費	247	247	0
消耗品費	調査研究・展示・プラネ・OA機器消耗品等	1,149	1,149	0
印刷製本費	ポスター・出版物、写真DP等	1,924	1,924	0
物品修繕料	展示機器・プラネタリウム機器等修繕料	2,310	2,310	0
通信運搬費	寄贈資料等運搬費	44	44	0
委託料	資料等保存処理委託等(D52・ホルマリン・剥製)	250	335	85
使用料賃借料	プラネタリウム設備、OA機器リース料等	18,777	23,574	4,797
原材料費	展示等作成用原材料	36	36	0
備品購入費	研究活動用機材等	300	300	0
	プラネタリウム投影機器買取(31年度)	1,141		-1,141
負担金	博物館協会等年会費等	144	94	-50
事業費計		28,683	32,374	3,691

博物館協議会事業

費目	主な支出内容	31予算	R2予算	前年度差
報酬	博物館協議会委員報酬	170	170	0
事業費計		170	170	0

博物館管理事業

費目	主な支出内容	31予算	R2予算	前年度差
報酬	会計年度任用職員		695	695
賃金	日々雇用職員賃金	680		-680
旅費	会計年度任用職員通勤手当		39	39
消耗品費	管理用事務用品等	324	328	4
光熱水費	電気・ガス・水道代等	7,893	7,887	-6
物品修繕料	備品等修繕料	350	350	0
施設修繕料	設備等緊急支出用修繕料等	1,500	13,762	12,262
通信運搬費	電話・FAX代等	428	446	18
手数料	各種設備法定検査費用(水質・煤煙)	61	61	0
保険料	建物総合損害共済分担金	52	52	0
委託料	施設管理委託料等	27,924	34,972	7,048
使用料賃借料	施設リース料(城島プレハブ)等	1,146	1,152	6
負担金	甲種防火管理者講習受講料	8		-8
事業費計		40,366	59,744	19,378

博物館 令和2年度歳出予算一覧

博物館情報システム事業

費目	主な支出内容	31予算	R2予算	前年度差
報償費	情報機器入力作業協力者謝礼	252	252	0
消耗品費	WEBシステム用消耗品	35	34	-1
委託料	レンタルサーバ運用費(30費目変更)	120	121	1
使用料賃借料	WEB関連機器リース料	1,435	1,449	14
事業費計		1,842	1,856	14

市史編さん事業

費目	主な支出内容	31予算	R2予算	前年度差
報酬	会計年度任用職員報酬		2,084	2,084
職員手当等	会計年度任用職員期末手当		294	294
賃金	臨時職員賃金	1,785	0	-1,785
報償費	執筆協力者・資料整理協力者謝礼等	2,929	2,602	-327
旅費	会計年度任用職員通勤手当		116	116
消耗品費	事務用品等	156	156	0
印刷製本費	資料等印刷代	100	100	0
通信運搬費	図書館施設電話代	53	53	0
委託料	OA機器保守委託料(複合機)	30	30	0
負担金	県歴史資料取扱機関連絡協議会年会費	10	10	0
事業費計		5,063	5,445	382

※ 博物館管理事業繰越明許

(単位:千円)

費目	繰越内容	繰越金額
施設修繕料	二酸化炭素消火設備修繕	2,222

令和2年度
2020

平塚市博物館 普及事業予定概要

令和2年(2020)3月現在

展 示

夏期特別展は、75年を経過した平塚空襲をテーマに、空襲前後の市民生活の様相を明らかにします。秋期特別展は、市内中原の佐草健氏が自身の少年時代の思い出を描いた約60点のボールペン画を展示し、昭和初期の中原の風景や暮らしの様子を紹介します。春期特別展は、最も身近な天体”月”を、地形に着目して紹介します。「第21回博物館文化祭」では、博物館で活動する教育普及行事ワーキンググループの成果を発表します。1階寄贈品コーナーでは概ね月替わりで各分野の企画展を開催します。2階情報コーナーではポスト特別展やミニ文化祭を開催します。

特別展	春期特別展 「空を見上げよう 光と色の不思議」	2020	4月 1日	～	5月 31日
	夏期特別展 「平塚空襲 ―その時、それまで、その後―(仮称)」		7月 11日	～	8月 30日
	秋期特別展 「よみがえる少年の日々 ―佐草健ボールペン画展―(仮称)」		10月 3日	～	11月 29日
	第21回博物館文化祭 ―ワーキンググループ展示・活動報告会・実演―	2021	2月	～	2月
	春期特別展 「月の地形(仮称)」		3月	～	5月

寄贈品 コーナー	自然系 「新着資料展1―自然分野―」	2020	4月 4日	～	5月 6日
	歴史民俗 「新着資料展2―歴史・民俗―」		5月 9日	～	5月 31日
	生物 「バードカービング」		6月 13日	～	7月 19日
	地質 「神奈川の鉱物」		7月 23日	～	8月 16日
	考古 「平塚の遺跡―近年の発掘調査成果―」		8月 20日	～	9月 2日
	全体 博物館実習生制作展示		9月 11日	～	9月 29日
	天文 「系外惑星25年」		10月 3日	～	11月 3日
	歴史 「村絵図展」		11月 6日	～	12月 6日
	民俗 「てぬぐい・うちわ・マッチにみる平塚の商店」		12月 10日	～	1月 17日
	考古 「鎌倉武士の足跡をたどる」	2021	1月 21日	～	2月 23日
	未定 未定		2月 26日	～	3月 28日

情報 コーナー	地質天文 ポスト特別展「賢治が見つめた石と星」	2020	4月 1日	～	5月 31日
	天文 ポスト特別展「空を見上げよう 光と色の不思議」		6月 13日	～	7月 12日
	地質 「恐竜展」(仮)		7月 18日	～	8月 30日
	以下、内容未定				

プラネタリウム

天文のテーマと季節毎の星空の話題でお送りする一般投影を7番組、幼児や児童を対象とした幼児投影を行います。また、学校を対象とした学習投影を水・木・金曜日午前に予約制で行なっています。

一般投影	一般向け投影 「ハッブル宇宙望遠鏡30年」	2020	4月 11日	～	6月 7日
	幼児向け投影 「タケルくん どうしてひるとよるがあるの？」(親子ほしぞらタイムを実施)		5月 9日	～	7月 11日
	一般向け投影 「太陽と星の動き」		6月 13日	～	7月 12日
	一般向け投影 「惑星たちのオリンピック」		7月 18日	～	8月 30日
	一般向け投影 「宇宙へ行った日本人」		9月 5日	～	11月 1日
	一般向け投影 「フリートークプログラム」		11月 7日	～	12月 27日
	一般向け投影 「2021年の天文現象」	2021	1月 6日	～	1月 31日
	一般向け投影 (内容未定)		2月 6日	～	3月 29日

特別投影	「星空散歩」(月1回)	2020 4月 ~ 3月
	「星空音楽館」(年4回)	2020 5月 ~ 2月
	「星よりも、遠くへ」	2021 3月 13日 ・ 3月 14日

各種普及行事

この他にも様々な行事があります。詳しくは「広報ひらつか」や博物館ホームページ(<http://www.hirahaku.jp>)をご覧ください。

自由参加 行事	全分野	博物館こどもフェスタ2020	2020 5月 6日
	歴史	平塚郷土史入門講座(3回)	2021 1月 ~ 3月
		年中行事のはなし(3回)	2020 8月 ~ 2月
	考古	歴史放談(8回)	2020 8月 ~ 3月
		考古学入門講座(3回)	2020 10月 ~ 12月
	地質	恐竜ペーパークラフトづくり	2020 8月
		鉱物講演会	2020 8月
	天文	星を見る会(11回)	2020 5月 ~ 3月
		体験学習「不思議な板で万華鏡を作ろう」	2020 7月
		天文学入門講座(6回)	2020 5月 ~ 3月
全分野	イブニング・ミュージアム・ウィーク[夏]	2020 8月	
	イブニング・ミュージアム・ウィーク[秋]	2020 10月 or 11月	
申込制 行事	考古	体験学習「縄文人になろう」	2020 8月
	民俗	ひらつか石仏紀行	2020 11月
		体験学習「お飾りをつくろう」	2020 12月
	地質	体験学習「化石レプリカづくり」	2020 8月
		相模川流域ジオツアー入門(3回)	2020 4月 ~ 11月
	生物	自然教室(6回)	2020 4月 ~ 3月
		きのこの観察会	2020 10月
天文	体験学習「体験！宇宙飛行士選抜試験」	2020 8月	
会員制 行事	歴史	古文書講読会／地域史研究ゼミ／平塚の空襲と戦災を記録する会／裏打ちの会	
	民俗	民俗探訪会／石仏を調べる会／聞き書きの会／祭りばやし研究会	
	考古	古代生活実験室／東国史跡踏査団／平塚の古代を学ぶ会	
	地質	地球科学野外ゼミ	
	生物	生き物ズームプロジェクト	
	天文	天体観察会	
	展示	展示解説ボランティアの会	

その他の全館的事業

館内のくん蒸・消毒に伴う休館	2020 6月 1日 ~ 6月 12日
博物館実習	2020 9月 2日 ~ 9月 10日

*都合により内容・日時が断りなく変更される場合がありますので、最新の「博物館ホームページ」「広報ひらつか」等でご確認ください。